

【山鹿市】1人1台端末の利活用に係る計画について

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

山鹿市は、山鹿市教育振興基本計画により、「ひと輝く」「きずな結ぶ」「みらい彩る」を基本方針とし、「確かな学力と健やかな体の育成」「社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成」等を基本目標として掲げている。

1人1台端末をはじめとする ICT 環境を整備することにより、具体的には、以下のような姿を目指す。

- ・校務改革・授業改革の推進により教職員の負担を軽減することで、子ども一人ひとりのきめ細やかな支援の充実を図り、確かな学力の実現につながる。
- ・児童生徒の個々の状況に応じた ICT 機器の活用を図り、多様化する児童生徒の個性を尊重し、誰一人取り残さない教育につなげる。
- ・様々な社会に柔軟に対応できる児童生徒の育成を図り、自らの力で未来を切り拓く力を持つことにつなげる。

2. GIGA 第1期の総括

令和2年度に山鹿市内全小中学校に4,100台(iPad)の1人1台端末を整備した。端末の通信方式については、cellularモデルを採用したことにより、校外学習の際の1人1台端末の活用や、家庭学習の際にも家庭環境にとらわれず、端末を活用することができる体制を整えた。

また、従来より導入を行っている電子黒板については令和3年度にリースにより更新を行い、普通教室等に配置した。

さらに、ICT支援員の導入を行ったことで、ICTを活用した授業の準備や支援、また、ICTの活用に関する研修等の実施を推進した。

これらの取組の結果、令和6年度の全国学力・学習状況調査の結果より、端末の活用については、ほぼ毎日活用する学校は小中学校ともに100%と全国的に見ても良好である。

また、図1のとおり、子どもが活用する場面を見ると、発表・表現する場面、教職員とやり取りする場面については、目標値を上回るまたは目標値に肉薄する割合を示している。

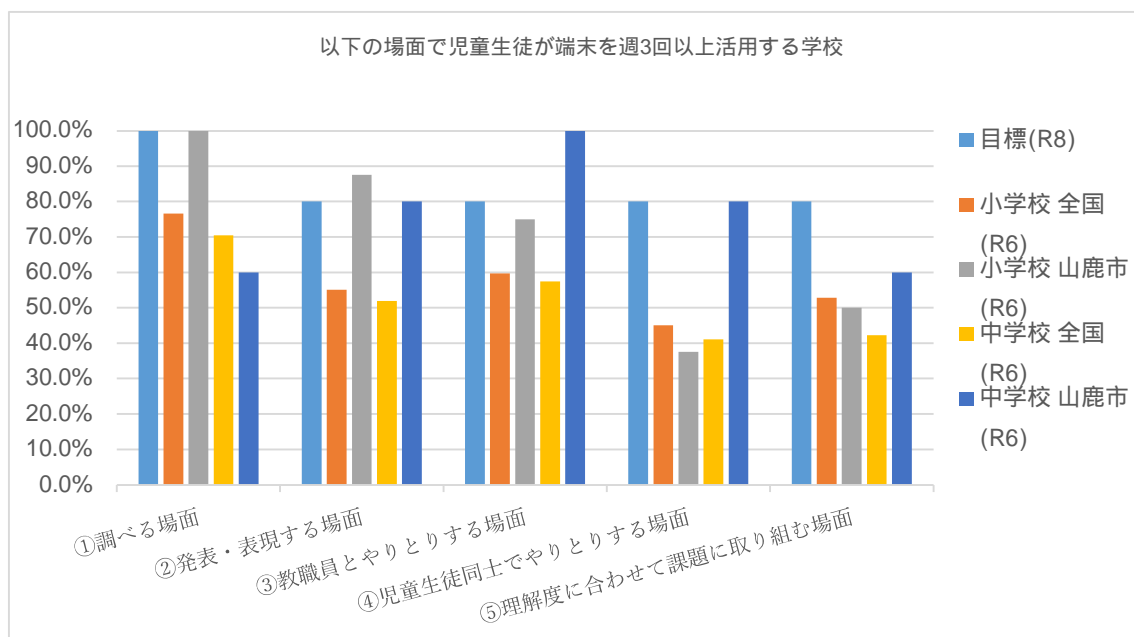


図1 教育DXに係る当面のKPIと令和6年度全国学力・学習状況調査結果

一方、小学校については児童同士でやりとりする場面、理解度に合わせて課題に取り組む場面、中学校については、調べる場面で全国平均を下回る割合を示している。このことから、活用は進んでいるものの、ICT機器を活用し教育の質を上げていくためにはさらなる授業改善が必要である。

また、一部の学校においては、ネットワークの利用状況や利用場所によって、遅延などの不具合が確認された。さらに今後はCBT方式でのテストが本格的に導入され、高品質でかつ大勢の児童生徒の利用に耐えうるネットワーク環境を確保することが求められている。そのため、通信事業者に対策を求めることにより、電波品質やICTを活用した学習環境の確保に努めていく必要がある。

さらに端末が子どもたちにとって身近なものとなったことから、学習以外での端末の利用や端末のぞんざいな扱い等も見受けられることから、情報モラル教育など推進を図っていく必要がある。

3.1人1台端末の利活用方策

本市では、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持するため、令和7年度に小中学校13校の端末更新を計画している。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていく。また、第1期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるための具体的な対策と改善策を検討する。

(1) 1人1台端末を積極的に活用するために

1人1台端末を始めとするICT機器の活用を行い、教師の業務負担軽減に取り組む

ために、1人1台端末の調達事業者やICT支援員、他自治体より情報収集を行い、きめ細やかな指導を行う時間確保につながるよう調査研究を行っていく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実を図るために

「個別最適な学び」と「共同的な学び」の充実を図るため、AIが理解度を判断し、個々の児童生徒にとって最適な出題や、学習履歴の管理・分析を行うことのできるAI型学習ドリルの継続活用や児童生徒の意見をタブレットにて共有できる学習支援ソフトの継続活用を行う。

(3) 学びを保障するために

児童生徒個々の状況に応じた誰一人取り残さない教育を行うために、インターネット設備に依存することなく個別学習を行ったり、離れた場所から共同学習を行うことができるCellularモデル端末を継続して整備する。